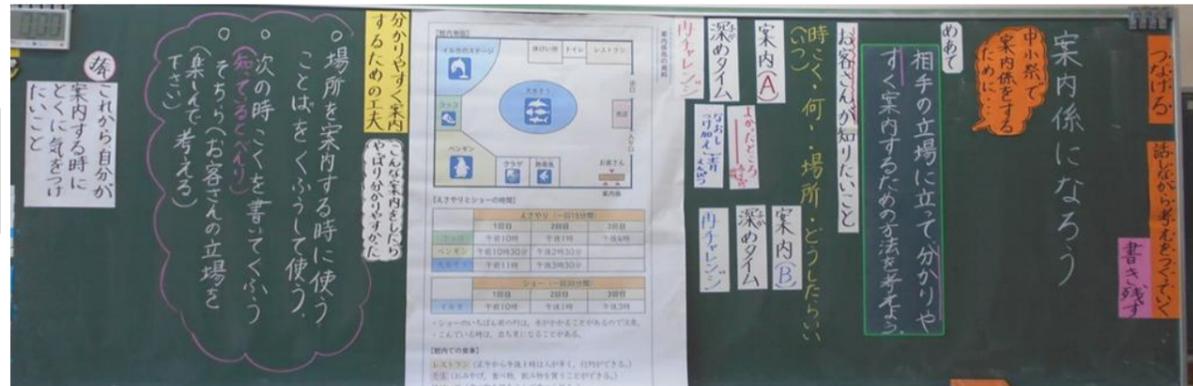


今年度1回目の授業研究は、26日(水)の5校時、4年1組の教室にて国語専科の渡邊智穂先生による提案授業「案内係になろう」で行いました。始まりのチャイムの前に教室をのぞいてみますと、外部からの参観者が10名ほど教室の後ろに並んでいらっしゃるのが見え、驚いた方も多かったのではないのでしょうか。それほど中村小学校の研究は注目されているのだと改めて感じたことでした。4年1組の子どもたちがそのような雰囲気慣れリラックスできるようにと、授業の前に「1文ずつリレー方式で動物園を案内するゲーム」をさせていました。そういった準備までぬかりのない渡邊先生です。

国語専科 提案授業 「案内係になろう」

本時で身につけさせたい資質・能力

- ・相手が知りたいことを考えて、案内する事柄を整理し、丁寧な言葉遣いで筋道を立てて話すことができる。



最終板書

今年度は、研究主題の副題にある3つの学びを授業参観の視点に入れ、新学習指導要領を踏まえた5つの視点で参観いただき、焦点を絞って研究協議を行います。低・中・高それぞれのブロックから出していただいたものをまとめてみました。

○は成果、●は課題や改善点です。

1、付けたい力(資質・能力)をつけるための単元構成が効果的なものか。(指導案の単元構成)

○身近な問題を取り上げてゴールを設定

- ・ゴールに向かって意欲的に取り組めるように工夫された教材である。

○「入門編」「チャレンジ編」「一人前編」というネーミングの良さ

- ・レベルアップしていくことが視覚的にもわかる→子どもたちのやる気を高めていた。

2、本時の「身につけさせたい資質・能力」をみにつけることができたか。

●予習の視点

- ・時刻の設定で児童の問い合わせや、案内の仕方に違いが出たのでは？

●児童の反応を学習展開に生かす

- ・お客さんが知りたいことをまとめた時の「どうしたらいい」という問い合わせを生かせば、もっと資料に目が向き活用できたのではないか。



●どこまでの力を求めていたのか?→「身につけさせたい資質・能力」を教師が明確に持つておくことが大切。

3、「主体的な学び」は実現していたか。それはどんな事実からか。

○既習内容の掲示→子どもがボードを見ながら活動していた。

○家庭学習とのリンク

- ・予習してきていたことが役に立った。⇔●予習してきた原稿を使ったために、原稿を読む活動になった。
- 次時の「めあて」を意識した予習を仕組むことが大切。

4、「対話的な学び」は成立していたか。それはどんな事実からか。

○教師の手立てと発問の工夫

- ・お客さんと案内係の両者の立場になることができてよかった。
- ・案内→深めタイム→再チャレンジという流れが明確
- ・案内AよりBの方をレベルアップさせる→意欲を高める

●対話の形態

- ・お客さんと案内係が対面する形に→資料と同じで分かりやすい
- ・ペア→グループ 対話の人数を増やしたことで、論点が始めにもどり深まらなかったのでは？

5、「深い学び」は成立していたか。それはどんな事実からか。

○赤・青鉛筆の活用(加筆によるノートづくり)

- ・自分の考えを消さないで、対話で深まった考えを色分けして加筆することで思考の足跡が残るノートに。

●「話す」活動が少ない→試行錯誤することを通して児童が自ら力を獲得する。

●「まとめ」と「振り返り」

- ・同じ内容にならないようひと工夫が必要。



校長先生・指導主事より

・「本時で身につけさせたい資質・能力」を付けるためには、対話のスキルをもっと鍛えないといけない。普段の授業からスキルを鍛えるの対話を仕組む。

・本時のねらいからすると、原稿なしで即座に資料を活用して話すことができるようにすることが大切。児童の活動を見取る1つの方法として、子どもたち自身に観点を持たせて、評価させることが考えられる。

→「話す・聞く」の領域の評価の方法を工夫

新学習指導要領を踏まえた「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が視覚的にもわかりやすい指導案を提案してくださった渡邊先生。提案授業や研究協議を通して、今年度の研究へ向けて第1歩となる共通認識を持つことができたと思います。全5時間どの授業も子どもたちが集中して生き生きと学習に向かっている姿が見られ、子どもをそうさせている渡邊先生の指導技術からも学ぶことがたくさんありました。提案授業ありがとうございました。

「リフレクションシート」の提出、みなさんありがとうございました。今年度は、このシートを用いて、研究授業を通して次の改善につなげることを明らかにする『授業改善サイクル』を行っていきたいと考えています。